

## ■覚鑊(興教大師)

かくばん

北面武士設置1095=

真言宗の僧。空海の権威と衝突、根来寺を開創して新義派の開祖となった。

生。肥前国藤津荘追捕使伊佐平次兼元の3男、母は橘氏。

4人の兄弟がみな僧となる環境のなかで、幼時税吏が父を苦しめるのを見て兄に問い、税吏より宰臣が、宰臣より天子が、天子より神が、そして神より仏が尊いことを聞き仏門に志したといわれる。

.....1100= 5歳：藤津荘が仁和寺成就院の所領であったことから、成就院の寛助のもとで出家し、密教灌頂性を受ける。

義家延暦掣肘1104= 9歳：

白河院政確立1107=12歳：

永久の変・・・1113=18歳：

南都に遊学したのち、

高野山最禪院の明寂、

園城寺の覚猷、

醍醐寺理性院の賢海から真言密教の諸流を学ぶ。

.....1122=27歳：

中尊寺・・・1126=31歳：\_鳥羽上皇の援助をうけて、平為里から寄進された紀伊国石手荘の神宮寺を伝法院とし、

鳥羽院政始・1129=34歳：

.....1131=36歳：\*高野山に大伝法院を創建、

.....1134=39歳：\_大伝法院の座主となり、金剛峰寺座主職を兼帯。

.....1135=40歳：\*両寺の職を辞し、密厳院に住し密観を修したところ、高野山の衆徒は、覚鑊のこの行動を、空海の奥院の儀相をまねる借越の沙汰として非難し、

西行出家・・・1140=45歳：\*両寺の所領争いに乗じて蜂起、密厳院を襲って大伝法院を破壊した。このため覚鑊は700人の衆徒を率いて根来山にのがれ、一乗山円明寺を建立。朝廷の勧めがあったが高野山にもどらず、

為義頼長臣従1143=48歳：ここに\_没した。